

昭和 45 年 3 月 6 日学術刊行物指定

ISSN 0285-2314

日本薬史学会五十年史

薬史学雑誌 Vol.39, No.1 (2004)

THE JAPANESE SOCIETY FOR HISTORY OF PHARMACY

c/o CAPJ, 4-16, Yayoi 2-chome,
Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0032 Japan

日 本 薬 史 学 会

日本薬史学会の創設・運営に貢献した役員



山科樵作 (1883~1965)



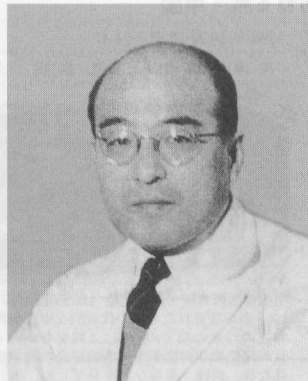
吉井千代田 (1899~1998)



三堀三郎 (1896~1977)



高橋真太郎 (1909~1970)



宮木高明 (1911~1974)



日本薬史学会々旗



宗田 一 (1921~1996)



三浦三郎 (1917~1977)

清水藤太郎幹事は、当初、自ら主幹をしていた雑誌：薬局（南山堂発行）の「平安堂閑話」欄に、本会の動向を要約記載し、会の情報発信を代行した。

☒はそのロゴマーク



平安堂閑話

薬史学雑誌

Vol. 1, No. 1 1966

目次

発刊の辞	北山 幸三郎	1
薬史学雑誌の沿革	村山 義弘	1
史料研究の発展	宮井 千代田	2
京都の文藝研究の発展	三浦 三郎	3
わが国薬史学の発展	野末 謙太郎	11
わが国における自然科学史の発展	宮井 千代田	14
下野 義典	三浦 三郎	20
フーティル・レーマン小伝	水村 是郎	22
八木 玄之丞 (追記)	北林 孫作	28
日本薬史学会・薬史学協会誌 (昭和34-40)		28
会 則		33
あとがき		32

THE JAPANESE SOCIETY OF HISTORY OF PHARMACY

日本薬史学会
J. His. Pharm.



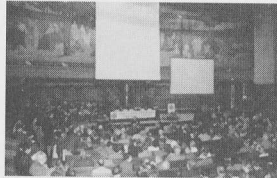
第32回国際薬史学会
会議ロコマーク
フランス病院薬局
500年(1495-1995)
を圖案化している

第4回薬史蹟を訪ねる旅・ヨーロッパ

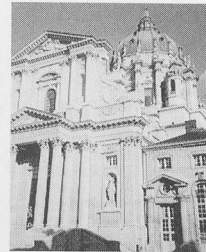
フランス・ベルギー・オランダ 1995年9月28日~10月6日

末廣 雅也・山川 浩司

Val-de-Grace 寺院▶
第32回国際薬史学会 (9月25-29日)の主会場、古い僧院で現在は軍病院となっている。25日夜、この教会で歓迎の音楽会とレセプションが行われた



ソルボンヌ大講堂の開会式風景▲
26日の開会式、会議参加者は約950名、このうち外国人約350名(日本人7名)であった。この時期パリの市の美術館はどこも入場は厳重であった



PARIS

薬史学会通信

No. 1 1985年10月

東京都千代田区神田神保町
日本薬史学会事務局
日本薬史学会事務局

発刊のことば

薬史学の研究課題は、人間の生命・健康に深い関わりのある物質——クスリ——をめぐる多岐(単に薬学・薬業・医薬品に関する史実の研究にとどまらず)なものであり、したがって史的考察を行う場合、まず歴史に対する基礎的理解を身につける必要があることは言うまでもありません。

しかも史学の目ざすのは、単に過去において生じた事象の由来する契機に留めて、その史的経過と現在ならびに将来への影響にまで及んでいます。

わが薬史学会は、日本薬史学会の年会における「薬史学部会」と、機関誌「薬史学雑誌」とを研究発表の場としていますが、新增する会員相互の交流を旨とし、研究意欲を活発にするために、今回この通信紙の刊行を企画し、実施することになりました。

会員の研究活動に資する情報の交換、資・史料の紹介などにも活用して頂ければ幸いです。

日本薬史学会の長代行
吉井 千代田

発行のねらいと内容

目下では、各々を異なって研究および特許目的に用いる薬品が、一般に多く、そのことは其の私的性質に由来している、と指摘する人もいます。(『現代特許』、大学と研究社会、日経新聞、1976、122ページ)

わが薬史学会においても同じことが言えるように、薬史学研究の発展は現代課題のひとつです。

薬史学が老人の回顧録も読みこなせるものから、若者の発達のための糧へと変換させる

今回は「薬史学会通信」(A4ページ下段へ)

第5回薬史蹟を訪ねる旅・中国

北京—杭州—西安—成都—上海 1996年10月12日~24日

川瀬 清, 山川 浩司, 高橋 文



万里の長城 (10月13日)
日曜日の1日北京郊外、八達嶺の万里の長城を登った。秋の紅葉の季節で多勢の人々が賑わっていた。



中国中医研究院・西苑医院 (10月14日)
1955年設立された北京の代表的な中医病院。病院の外來の前での一同、2列目右から4人目が院長の李祥国先生。病院紹介のビデオを見た後、病棟、薬局などを見学した。海外からの留学生、研修生が働いていた。



内藤記念くすり資料館(博物館)開館記念・日本薬史学会講演会(1971.6.13)

日本薬史学会五十年史目次

はしがき	
内外関係学協会からの祝辞	1
日本薬史学会創立五十周年に際して	
—正倉院薬物調査研究の50年—	柴田承二 8
日本薬史学会50年の歩み(川瀬清)	16
20世紀日本の薬学の概観と21世紀への展望(山川浩司)	36
日本の薬学戦後50年史	66
有機化学(山川浩司)	66
天然物化学(北川勲)	72
分析化学(南原利夫)	79
衛生化学・公衆衛生学(高島英伍)	83
薬剤学(瀬崎仁)	88
製剤学の50年史(坂元照男)	93
新薬開発50年史(小澤光)	101
薬理学(粕谷豊)	111
放射化学(小嶋正治)	115
薬史学(川瀬清)	120
薬学情報(長山泰介)	124
薬学教育(山川浩司)	128
薬学概論(辰野高司)	134
明治期に創設された薬学校史	137
明治期の(私立)東京薬学校(川瀬清)	137
明治期の京都薬科大学(鈴木栄樹)	143
金沢大学薬学部の歴史(山本讓)	148
長崎大学薬学部の歴史(中島憲一郎)	153
千葉大学薬学部の歴史(岩城謙太郎・藤沢栄一・小川通孝)	156
明治薬科大学の歴史(大島融)	160
明治期における熊本の薬学教育(小山鷹二)	165
名古屋市立大学薬学部115年(八代有)	171
明治時代の薬学教育—東北地方の部—(小山鷹二)	177
明治時代の薬学教育—廃校となった数種の薬学校—(小山鷹二)	179
薬史学会の記録	
薬史学雑誌 Vol. 1~38 総目次, 薬史学会通信 No. 1~36 総目次	187
日本薬学会・薬史学部会, シンポジウム, 薬史学集談会, 日本薬史学会総会講演, 薬史学会年会および関係学会合同講演会等の記録	218
日本薬史学会五十年史年表	250
全国の主な医薬史蹟一覧	255
江戸時代の薬園, 薬用植物園	259
編集後記	263